

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	高知県指定 第3970100560号
法人名	医療法人 恕泉会
事業所名	グループホーム ひまわりの家
訪問調査日	平成 20 年 3 月 11 日
評価確定日	平成 20 年 6 月 17 日
評価機関名	高知県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	高知県指定 第3970100560号
法人名	医療法人 恕泉会
事業所名	グループホーム ひまわりの家
所在地 (電話番号)	高知県高知市塚ノ原33番1 (電話)088-843-5660

評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成20年3月11日	評価確定日	平成20年6月17日

【情報提供票より】(20年 2月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12年 6月 2日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7(内兼務2)人, 非常勤 0人, 常勤換算 4.2 人	

(2)建物概要

建物形態	単独		
建物構造	木造鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000円・27,000円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900円	

(4)利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 88.4 歳	最低	78 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	内田脳神経外科	もみのき病院	岡本歯科医院	2
---------	---------	--------	--------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人本部である病院の横にあるホームであり、連携はとれている。静かな住宅地に位置しており、当日は春の日差しを受けてホーム全体が穏やかな雰囲気を出していた。
 外出支援等に家族の協力もあり、利用者と家族、職員の関係は良好である。平成12年に開設されたホームであり、利用者に向き合う職員の姿勢は他ホームのお手本となる。
 今後も、これまでと同様に利用者一人ひとりの自尊心を大切にしたい生活の継続に努めていきたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善事項については、職員全員で課題を共有し、改善に向けた話し合いが持たれており、「利用者個別の情報共有」は、個別ノートを作成し、一人ひとりの特徴や気づきについて職員全員で記録している。「危険物の保管場所」は、早急な取り組みが図られ、改善されている。
重点項目 ②	自己評価については、管理者以下、職員全員が取り組む中で、各項目ごとに担当を置き、評価を行った後、意見交換を行い、現状と課題について話し合っている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目 ③	メンバーは、町内会長、地区民生委員、市職員、利用者、家族等で構成され、2カ月に1回開催しており、主な協議内容を年間で作成している。今後は、ホーム側の発信や情報提供だけでなく、メンバーからの意見や提案等を引き出す工夫をするなど、更なる双方向的な意見交換を目指して取り組まれない。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目 ④	家族向けの通信は毎月、利用者担当制による職員からの手紙は隔月ごとに発送しており、その際に家族とのコミュニケーションを取るような工夫をしている。 また、利用者の状態変化や事故報告などは、早急に対応しており、家族との連携は十分図られている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、地元の保育園や小学校とも交流している。 ホームの1階では週一回、地域住民と「百歳体操」を開催している。また、法人全体として季節ごとの行事を地域を巻き込んで開催するなど、近隣との関係は良好である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 利用者を中心とした職員の想いが籠もった理念である。 <input type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である。 「1日1度は外へ目を向けよう」の文言により、地域との関係を示しているとのことだが、より具体的な表現が求められる。	○	グループホームにおいても地域との関係性が重要視されている。実態としては、地域とさまざまな交流が行われており、ホームの顔でもある理念に「地域」をより具体的に盛り込むことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 毎月1回開催する寮母会において、理念を振り返り、理念を基にした介護のあり方について話し合っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面(言葉かけ、態度、記録等)において、理念が反映されている。 高齢者のペースにあった介護を心がけており、理念に基づいた取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 町内会に参加しており、地区の行事への参加など連携ができています。 <input checked="" type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 法人本部と一緒に地域との交流を行っており、ホームとしては、地区内の小学校や保育園との交流や地域の方々10名程度と一緒に、ホームの1階において「百歳体操」(週1回)を開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 今回の自己評価の作成にあたっては、項目ごとに職員全員に割り振りを行い、最終的に職員全員で話し合いがされている。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 前回の改善事項については、職員間で話し合い、改善している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<input checked="" type="checkbox"/> 会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。 メンバーは、町内会長、地区民生委員、市職員、利用者、家族等で構成され、2か月に1回開催している。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。 年間の主な協議内容を決め、また、その時々ホームにおける課題について協議し、改善をしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。 市町村の窓口に対しては、ホームの近況を報告し、市主催による研修にも積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。 外出の際の支援など、家族の協力は多く、常日頃から話し合う場がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。 ホーム便りは毎月1回、利用者の担当制による職員からの手紙は隔月1回、家族向けに送付している。行事等の利用者の写真なども同封している。 <input checked="" type="checkbox"/> 心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。 健康状態などの変化については、早期に家族等へ報告をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 金銭について使途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。 利用者ごとに管理台帳を整理している。今後は、領収書のコピーを保管することが望まれる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 家族会を組織している。常日頃より家族と会う機会があり、個々で話し合いをおこなっている。ホームの行事には家族への案内も行い、集う場の機会は設けている。また、職員と家族との間で手紙を通じた交流もあるので、こうした取り組みから得られた家族の意見等は、職員間で共有することが望まれる。 <input type="checkbox"/> 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。 開設時から現在のところ、苦情はない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 18・19年度については、主だった異動等はなく、利用者、職員とも大変落ち着いた環境にある。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。 管理者が退職する場面においては、1カ月前から引継ぎを行ったことがある。法人内での異動についても一定期間の配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<input checked="" type="checkbox"/> 日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 法人やホーム管理者より研修の案内等が周知され、職員も積極的に参加する体制にある。 <input checked="" type="checkbox"/> 全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 寮母会・勉強会(1ヶ月に1回開催)において職員間で報告する機会がある。緊急での伝達が必要な場合は、日々のミーティングで報告を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。 県内の宅老所・グループホーム連絡会に加入している。 <input checked="" type="checkbox"/> 管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。 上記の連絡会により、交流の機会はある。今後は、同グループのホーム(3カ所)で協議の場等を持つことが期待される。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 入居の際に家族からの情報を得ている。また、アセスメントにより、日常において利用者の状況把握ができています。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。 入居希望については、本人や家族に訪問してもらい、昼食やおやつを利用者と一緒にとつてもうなど、ホームの雰囲気や体験を体験してもらっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。 基本的には、ホーム管理者と職員とが面接を行い、話し合いで入居判定をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<input checked="" type="checkbox"/> 日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。 洗濯物たたみなど、利用者のできることを見きわめ、時間をかけて支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。 食事の場面においては、食器洗い、配膳、ご飯やおかずの盛り付けを当番を決めて行うなど、それぞれが役割を持っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 干し柿の作り方や土佐弁など、昔からの生活の知恵や方言を利用者から教わるとともに、そうしたことを通じて利用者同士で、また職員と、交流の場を広げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 センター方式やホーム独自のアセスメントシートの併用により、個別の介護計画を作成している。また、生活歴の充実を図るため、個別の生活歴ノートを作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 現在、1名の対象者がいるが、困難になる前から入居していたことで、職員も利用者の表情から読み取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 利用者や家族の要望を介護計画に入れており、家族のサイン、確認印をもらっている。 <input checked="" type="checkbox"/> アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 職員全員で利用者の担当(1~2名)を決めており、各自でモニタリングを行った後、全員で意見交換会を開催している。日々の記録はケアプランに沿った課題を抽出し記載しているが、今後、よりケアプランが生かされた記録とするには、ニーズの記載方法について工夫することが期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。 1か月ごとに評価を行い、3か月ごとにカンファレンスを行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。 <input checked="" type="checkbox"/> ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。 入居時は2週間で見直し、その後、1か月の計画を作成し、経過を看た上で、3ヶ月とするなど、段階を踏んだ取り組みをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながらの生活が継続できるように努めている。 法人本部の病院と連携を密にしており、対応が可能である。 <input checked="" type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 実施できる体制はある。 <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 利用者のふるさと訪問、家族と職員が同行する通院など、積極的な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人、家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。 皮膚科や眼科など、入居前のかかりつけ医への受診を行っており、家族と職員が同行している。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有ができています。 家族への連絡は日常的に行っており、個別の記録ファイルに保管している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input checked="" type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。 対応の方針は定められており、受け入れる体制がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられるように取り組んでいる。 法人の本部である病院との連携があり、受け入れる体制がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input checked="" type="checkbox"/> 人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。 昼食時や日中を過ごす間において、特に気になる行為はなく、職員も穏やかな口調で声かけをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。 日々のミーティングにおいて常に確認をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。 これまでも関連の研修会に参加し、職員間での共有も図っている。近々、法人全体での研修も予定している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。 その日の利用者の様子を見て、外出や買い物に出るように心がけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。 朝遅く起きる利用者もいるが、本人のペースに合わせている。外出においても、天気状況により行き先を変更するなど、柔軟な対応ができています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切に進めている。 食事の場面において、食器洗い、配膳、ご飯やおかずの盛り付けなど、それぞれが役割を持っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は食事介助のみではなく、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。 職員全員が昼食と一緒に食事をしており、食事中にもさりげない気配りができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 利用者によっては、夕食の前・後の希望に合わせた対応ができています。ほぼ全員が2日に1回入浴している。 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。 拒む人に対しては、場所を移動して新たな声かけをしたり、本人のその日の状態に合わせて入浴支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 食事の片づけ、テーブル拭き、洗濯たたみなど、利用者の状態を見極め、やさしい誘導を心がけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 花壇の手入れや畑づくりなど、場面に応じて利用者に意見をもらっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため、職員は働きかけを行っている。 利用者と一緒にたのびのおやつ作りや絵画や百人一首の読み手などを働きかけている。また、法人職員による音楽療法を取り入れ、集団で月1回、個別に月1回実施し、利用者の残存機能の維持や精神的な安定につなげている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。 ほぼ毎日、散歩を行っており、利用者の様子を見て買い物などにも出かけている。また、希望により美容室や近所の喫茶店へ出かけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的に行っている。 現在は、外出時に車イスとシルバーカー利用者がそれぞれ2名おり、家族と一緒に外へ出ることを支援している。法人本部の病院から定期的な買い物の送迎もあり、外へ出る機会が多い。 <input checked="" type="checkbox"/> 日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。 散歩はほぼ毎日、近所の喫茶店やスーパーにも出かけている。法人本部が大型バスを所有し、事前予約により外出しやすい環境にある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 居室や日中玄関に鍵をかけていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。 ホームは、法人本部の病院と同一敷地内にあり、病院関係者はもとより、日頃の付き合いを通じて、近所の喫茶店、民生委員など関係者に気をつけてもらえる環境にある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施している。 法人本部の病院と一緒に年2回非難訓練を行っているが、地域住民は参加していない。 <input type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常用食料・備品を準備している。 非常用食料は確保しているが、水の備蓄や災害に備えた備品をホームとして準備する必要がある。	○	災害時における地域住民の協力は不可欠であり、訓練への参加を早急に検討されたい。また、現在、法人本部で関係ホームの備蓄品などを準備中とのことであり、できるだけ早期の対応を期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 食事とおやつ時に水分の摂取について把握し、チェック表で管理している。一部水分摂取量が少ない利用者もいるので、摂取方法の工夫や観察が必要である。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 献立のメニューは示しているが、利用者の希望に対応できている。利用者の好みや嫌いな物も把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。 法人本部の病院の管理栄養士に2～3ヶ月に1回程度、確認をしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 利用者がゆったりとくつろげるスペースが数ヶ所あり、1階のテラスでのひなたぼっこやガラス戸からの採光も部屋を温かくしている。各自が部屋に閉じこもることなく、常にくつろげる空間がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気を壊していない。 壁面には、写真愛好者からの花や風景の写真をはじめ利用者の日常の活動風景などが工夫して飾られ、空間を不快なものにはしていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。 玄関には、雛飾りがあり、共有スペースにも適度に花が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置くなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫されている。 それぞれの居室に工夫がされており、生活感が感じられる鏡台やタンス、ぬいぐるみなど個性のある物が配置されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。		